

冬枯れの道端

* ^{Em} 強い北風が吹き ^D 積もる前の雪が

^C すっかり飛ばされた ^{B7} 黒い道に

^{Em} どこからか飛んで来た ^D 数枚の若い落葉

^C 地上に落とされて ^{B7} たぬらいかたちに ^{Em} **

^{Em} あと一枚だけになった ^D カレンダー

^C いろしな ^{B7} かかわり ^D 少なくなった今は

^{Em} 過ぎ去る ^D 今年の ^C 少ない ^{B7} 感じる ^{D7}

* ^G 寒さにも夏はず ^C に ^{Am} 冬枯れの道端の ^D

^G こに咲く ^C 小さな花 ^{Am} 何て ^D いう花 ^G かな **

強い風にあおられて 舞い上がる落ち葉が

乾いた音をたてて 乾ぶ脇の

歩道の隅っこに 積まった古い枯れ葉

行き場を失って 申し訳なそう

賑わい横目で見るイベント

いろしな ^D かかわり ^C 少なくなった今は

楽しいこと ^D たくさん ^C 感じる ^{D7}

(* ~ ** くりかえし)

17日の ^D 姿に ^C 再気づけられて

やるべきこと ^D 見つけ ^C Todo. リストに

(* ~ ** くりかえし)

緑のオーブ

0 7 F#m 2 0 7 G#dim 7 2



7 朝5時過ぎの冬の西の空

0 7 Bm 2 眩しいほどに光る満月

7 2 F#m 0 7 2 手は暗い空 藍色の中で輝く

Bm 7 2 C#m 2 7 2 撮った画像に映る小さな緑のオーブ

7 2 F#m 2 幾度シャッターを押してもそのたび違うかたち

0 7 G#dim 2 何処でも映る奇跡の訪れ

7 2 F#m 2 たゞそれだけが思いがけのないことであつて

0 7 2 きっとそのうち幸せがやってくる **

いくつかの電線に支えられた

光る雲を下から照らして

びの街灯よりも 明るく低く輝く

そのうち雲に隠れる満月

職場に向かう駅までの速足を少し止めて

モバイルのカメラのボタンを押して

なかなか閉じてくれないシャッターの音を聞いて

偶然に撮れる緑のオーブ

(*~**くりかえし)

暮しの街

Am F G Am F G ^{67.} → 9.10.26.6.6.Am F Dm F G (Bdim) C G
今年もあと少なくて 夕方ばかりに 飾られた 街Am F G F# Bdim Am
光り照らされて 夜の 景観Am G Em Am
これを見ている人たちの多くは 立ち止まってAm C Bdim G Am
連れだって 眺め お互い 幸せそうに見えるF Dm C Em Am Bdim G Am
どうして自分は 寂しくなるのだろうF Dm C Em Am Bdim G Am
一人で 前を 立ち去ろうとしている

心のどこかで 誰かを探めている

閉ざしていた 向かか 痛みかえる

これを見ている人たちの多くは この世に

とぼに いる人と 微笑みをかわらしている

どうして自分は 孤独になるのだろう

一人で 前向き 立ち去ろうとしている

木枯らし

Em Em D Am C G D Em Em D Am C G D

もうこれ以上ここにはいられない

何もさえぎるものすらなくて

ひっそり残る麦いろのE1ログサが

一枚だけ強く立つ

誰に認められなくても

この気持ち譲れない

だけどニースには寄り添えられていない

ここにいる資格もない

相手にされない、冷たいの中

そしてどこにもなく木枯らし

冷たいだけでもない

モトーンになった線路づたひ独り歩き

スキマだらけの線路の柵の手前の

雨風にさらされた舗装の色が

ヤケに綺麗に映っている

誰に認められなくても

信じたことやめる気はない

だけど見たくないことも見ていない

確証にイヤスかかること

いちばん恐れていたのに

そんなところにふく木枯らし

冷たいだけでもない

たまにように!
 盃冬の川縁

G C D7 G C D7

スレボリの街 走る江アサイフル

緑がなくなつた 盃冬の川縁を C D7

Em C G D
 橋の袂で ふと足をつく

Em C G D
 わたる川の真ん中あたり

G C Am G
 やつくりと黒く光りカチてる右の方から

G C Am G
 時折キラリと光る流氷がこちらに

Em C
 思い出す あれは 5年前

D G
 僕たちは ココにいた

Em C
 もう今は 音の無い映像

D G
 押し寄せる まぶたの裏

焦茶いろの桜の枝が

唐草模様にも水面をヒビ割る

晴れていても危の為に

つけた手袋 汗ばんで外す

背負ったリュック前に抱えこから取り出すモバイル

心に留めておきたい景色がせかカメラに

その瞬間 我にかえる

今僕は ココにいる

もう今は 床かな...あの頃

引き戻される 現実には

遠くに聞こえる子供の叫び声

重なる乾いたバイクの音と

誕生日には

G A D G G A D G

G E_m C D G E_m C D
寒い風が吹いて粉雪がほしくつた後一瞬で

C G D G
暖かい鍋の湯気と混じり消えて

C G D G
そしてフェイスタオル拭きでそれもある

G E_m C D G E_m C D
今日の誕生日もいつものように君が準備してくれた干し鍋で

C G D G
よくあるお返ししたXニニだHと

C G D G
結局どこにも行かないからこれにたのむ

G A_m D G
Ah Happy birthday to you いつもありがとう

G A_m D G
Have a fun birthday today これからおめでとう

D G B_m
人生まだお前がこれから先がある

A_m C A_m D
歳をとったなして言わな

D G B_m
不満をいって小言少すめにして

A_m C A_m D
なかなくできるようにしたいね

G A_m D G G A_m D G

結局積たらずに消えた雪の代わりに木枯し音をたてて

開けた窓開けた時 風が高い音で

抵抗した割には あつた途切れる

今日の誕生日は特別に君の年それ年の赤ワイン

よくあるお返ししたプレゼントお返し

結局自分も飲みたからこれにたのむ

Ah Happy birthday to you 小言少すめにして

Have a fun birthday today これからおめでとう

人生まだお前がこれから先がある

歳をとったなして言わな

家内安全 塩分控えてめにして

永生までできるようにしたいね

Capo. 1 C 1-2IV
Capo. 6 G (タッチシビル)

#

聖なる夜に

G D Em Bm C Bm Am D7 x2
C G Am G C G Am G
F C Dm7 C F C Dm7 C

G D Em Bm C
C G Am Em F
街に輝くイルミネーション

G Am7 D7
C Dm7 G7
流れてくるメロディ

G D Em Bm C
C G Am Em F
お部屋にも何か飾りたくて

G Am7 D7
C Dm7 G7
小さなリースを

Em Am7 Am G B7
Am Fm7 Dm7 C E7
生まれた日ではなく誕生をお祝いのする日

Em Am7 Am G D7
Am Fm7 Dm7 C G7
1週を残したばかりの無事も祝って

G D Em Bm
C G Am Em
★ Oh Merry-Christmas-ティ Oh T. Merry-Christmas-トゥー
C Bm Am D7
F Em Dm7 G7
大事な君と

G D Em Bm
C G Am Em
Oh Merry-Christmas-ティ Oh T. Merry-Christmas-トゥー

C D G
F G C
明日を迎える ★★

ノーマル

クリスマスの色 赤と緑 白と金銀

赤は愛の色 緑は命 白は清らかさ

金銀は希望と豊かさ気高さの色

何もなかったけど 明日を夢見て

Oh Merry-Christmas-ティ Oh T. Merry-Christmas-トゥー

しあわせ誓って

Oh Merry-Christmas-ティ Oh T. Merry-Christmas-トゥー

確かめあって

(★~★★ くりかえし)